

目的 ドライクリーニングにおいて、油性汚れによる再汚染現象を解明するためにモデル汚れとして数種の油性物質を用い、布への付着量を調べた。

方法 試験布は、羊毛布・木綿布・アクリル布の3種を用い、モデルの油性物質としては、前報に示した使用中のドライクリーニング液中の汚れ成分の分析結果に基づいて、オレイン酸・ステアリン酸・トリオレイン・トリステアリン・流動パラフィンを用いた。これら油性物質をテトラクロロエチレンに溶かし、その液に試験布を浸漬・風乾したのち、ソックスレー脂肪抽出器を用いてエチルエーテルで抽出し、試験布への付着量を測定した。

結果 ①油性物質の付着量は、30分までの間では、浸漬時間による影響は認められなかった。②テトラクロロエチレン中の油性物質含有量が増加するにつれて、試験布への付着量も比例的に増加する傾向にあった。③試験布の種類によって、油性物質の付着量にかなりの相違がみられた。④油性物質の種類による付着量の相違は、それほどはっきりとは認められなかった。